



里親編 - セッション14 「自己評価の質問」

1. 子どもたちが巣立ってからのアフターケア期間は、
 - a. 若者が自立していて、それ以降の支援を必要としないため、最も物事が簡単に運ぶ
 - b. 試練が待っているため、あらかじめ十分に準備しておく必要がある
 - c. 世界のどの国でもプログラムや行政による支援がある
 - d. 上記のいずれにも該当せず

2. 子どもたちが思春期による変化を経験するとき、里親は、
 - a. それにまつわる問題を子どもたちが自力で解決できるため、干渉を避ける
 - b. 仲間との（子ども同士の）対話、交流、相互支援を推奨する
 - c. どのようなことが起こり、どのようなことが期待されるかについて、子どもたちに話す
 - d. 子どもの仲間グループとの話し合いを手配して、進行中の変化とこれから起こる変化に対するアイデアや期待について話し合う

3. 里親は、10代の子どもたちに対して、
 - a. 幼い子どもたちよりも、厳しい姿勢を持つべきである
 - b. 幼い子どもたちよりも、寛容な姿勢を持つべきである
 - c. 厳しさと寛容さのバランスを取り、どんなことに交渉の余地があり、どんなことが言語道断かを明確に理解させなければならない
 - d. 幼い子どもたちに対するのと同様にあるべきである

4. 子どもたちが青年期に近づき、実親に合うことを望み始めたとき、里親は、
 - a. 子どもたちが望むときにいつでも、実親や親戚に会いに行かせるべきである
 - b. 子どもたちが家から出ることを禁ずるべきである
 - c. 里親と一緒に実親と会うべきである
 - d. 巣立った後の孤立化を防止するために、定期的な面会を許可する

5. 親許で暮らせない10代の子どもたちには、
 - a. 模範となる人物が必要であるが、里親家庭に10代の里子に相応する経験を持つ人物がいるとは限らない
 - b. モデルとなる人物を見つけることに関心がない
 - c. モデルとなる人物は不要である
 - d. 実親をモデルとなる人物とみなす傾向がある